



## 1個のカマキリの卵から、何びきぐらい生まれるの

### オオカマキリでは400びきほど

オオカマキリの1個の卵のかたまり(卵囊)からは、300～400びきの赤ちゃんが出てきます。ハラビロカマキリなどのように、小型のカマキリになるほど、卵の数は少なくなります。春、アブラムシが、新芽にむらがり始めるころ、カマキリの幼虫が生まれます。卵囊のかべには、虫が出てくるためのあながあいています。カマキリの幼虫は、このあなから、次々と、出てきます。カマキリの幼虫は、おしりから出る糸にぶら下がっています。おり重なるように次々と出てきても、この糸のおかげで、地面に落ちることはありません。

### 卵囊は、あわのかたまり

メスは、卵を産む前に、おなかから、あわのかたまりを出します。卵は、このあわの中に産みます。やがて、あわは固くなり、中の卵を雨、風、寒さから守る器になります。卵囊は、木の枝や石、かべなどにくっついて冬をこします。あわの中にふくまれた空気が熱を伝えにくいので、寒い冬も卵囊の中は暖かです。

### カマキリの種類

日本には、カマキリ、オオカマキリ、ウスバカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリなどがあります。これらはおもに、南の暖かい地方に多く見られます。種類により、卵囊の形がちがいます。(監修・中山 周平)

